

31:9 モーセはこのみおしえを書きしるし、主の契約の箱を運ぶレビ族の祭司たちと、イスラエルのすべての長老たちとに、これを授けた。

31:10 そして、モーセは彼らに命じて言った。「七年の終わりごとに、すなわち免除の年の定めの時、仮庵の祭りに、

31:11 イスラエルのすべての人々が、主の選ぶ場所で、あなたの神、主の御顔を拝するために来るとき、あなたは、イスラエルのすべての人々の前で、このみおしえを読んで聞かせなければならない。

31:12 民を、男も、女も、子どもも、あなたの町囲みの中にいる在留異国人も、集めなさい。彼らがこれを聞いて学び、あなたがたの神、主を恐れ、このみおしえのすべてのことばを守り行なうためである。

31:13 これを知らない彼らの子どもたちもこれを聞き、あなたがたが、ヨルダンを渡って、所有しようとしている地で、彼らが生きるかぎり、あなたがたの神、主を恐れることを学ばなければならない。」

31:14 それから、主はモーセに仰せられた。「今や、あなたの死ぬ日が近づいている。ヨシュアを呼び寄せ、ふたりで会見の天幕を立て。わたしは彼に命令を下そう。」それで、モーセとヨシュアは行って、会見の天幕に立った。

31:15 主は天幕で雲の柱のうちに現われた。雲の柱は天幕の入口にとどまった。

31:16 主はモーセに仰せられた。「あなたは間もなく、あなたの先祖たちとともに眠ろうとしている。この民は、はいつて行こうとし

ている地の、自分たちの中の、外国の神々を慕って淫行をしようとしている。この民がわたしを捨て、わたしがこの民と結んだわたしの契約を破るなら、

31:17 その日、わたしの怒りはこの民に対して燃え上がり、わたしも彼らを捨て、わたしの顔を彼らから隠す。彼らが滅ぼし尽くされ、多くのわざわいと苦難が彼らに降りかかると、その日、この民は、『これらのわざわいが私たちに降りかかるのは、私たちのうちに、私たちの神がおられないからではないか。』と言うであろう。

31:18 彼らがほかの神々に移って行って行なったすべての悪のゆえに、わたしはその日、必ずわたしの顔を隠そう。

モーセが世を去るにあたって、その後に願ったことは、自分の名誉でも子孫への財産分与でもなく、ただ主の「みおしえ」に民が従うということでした。それは彼のライフワークの完成とか、夢の続きというのではなく、神である主の御心です。

モーセの思いはきっと、これから主にお会いするのだから、その主の思いに最後まで沿いたいというものであったろうと思われます。死とは人生の完成や終焉ではなく、神様との永遠の始まりなのです。

私たちに多くはまだ地上の時間が長いと思っ
ているでしょう。ただ、自分の目標や動機が自分
を中心にしているか、神を中心にしているかは、
人によって違うでしょう。主を中心に据える生き
方には動揺がありません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

